

## 第10回北九州市PCB処理監視委員会議事要旨

1 開催日時 平成16年12月13日(木) 13:30~15:40

2 開催場所 日本環境安全事業(株) 北九州事業所

### 3 会議次第

- (1) PCB処理情報センターについて
- (2) 北九州PCB廃棄物処理施設における試運転について
- (3) 緊急措置手引書について
- (4) 北九州PCB廃棄物処理施設の操業開始について

### 4 出席者

#### (1) 委員

|        |    |        |    |
|--------|----|--------|----|
| 浅岡 佐知夫 | 委員 | 稲永 勝   | 委員 |
| 柿内 よし子 | 委員 | 是永 逸生  | 委員 |
| 嶋津 元彦  | 委員 | 杉本 旭   | 委員 |
| 津田 潔   | 委員 | 成田 裕美子 | 委員 |
| 東 敏昭   | 委員 | 古野 和彦  | 委員 |
| 水城 秀信  | 委員 | 吉永 耕二  | 委員 |

#### (2) 日本環境安全事業(株)

|                              |       |
|------------------------------|-------|
| 事業部長                         | 木村 祐二 |
| 北九州事業所長                      | 吉本 範男 |
| 北九州事業所副所長                    | 石川 学  |
| 北九州事業所総務課長(併任:本社営業部北九州グループ長) | 水取 周隆 |

#### (3) 関係行政機関

|                   |        |
|-------------------|--------|
| 環境省産業廃棄物課課長補佐     | 山本 郷史  |
| 北九州西労働基準監督署安全衛生課長 | 松尾 篤睦  |
| 若松海上保安部警備救難課長     | 岩木 眞廣  |
| 福岡県環境部廃棄物対策課      | 中門 光生  |
| 北九州市              |        |
| 環境局廃棄物指導課長        | 原口 清史  |
| 環境局環境対策課課長        | 薬師神 重二 |
| 若松区まちづくり推進課係長     | 瀬川 公則  |
| 経済文化局水産課課長        | 田邊 明   |
| 港湾局計画課            | 中島 育男  |
| 消防局指導課係長          | 湯越 辰也  |
| 消防局警防課主査          | 永友 義夫  |

(4) 事務局(北九州市)

|           |       |
|-----------|-------|
| 環境局長      | 垣迫 裕俊 |
| 環境産業政策室長  | 今永 博  |
| 環境産業政策室主幹 | 入江 隆司 |

5 議事概要

【Q = 質問、A = 回答、D = 要望、O = 意見・感想】

会議に先だって、委員は、情報公開ルームなどの見学を行った。  
施設は、試運転が終了し、12月18日(土)に開業式が行われ、いよいよ本格  
操業開始となる。

委員長

予定議題に入る前に、排気設備の活性炭および、監視委員会だよりの配布  
について、前回委員会で委員のほうから、質問・問い合わせがあったので、  
それについて、日本環境安全事業(株)及び、北九州市のほうから回答を求める。

- 排気設備の活性炭によるPCBの除去率は、参考資料(2)に記載。
- 監視委員会だよりについては、従来、若松区全戸回覧および、市内各区役所  
及び出張所にて配布を行っていたが、「若松以外の区と温度差があるのでは」  
との委員から意見があり、第9回監視委員会だよりにて、市内の小中学校区単  
位にある市民福祉センター(全126ヶ所:17.1より「市民センター」に改称)  
にて配布を開始。

委員

Q: 活性炭の件以外にもう一点、高濃度のPCB処理について、厚生労働省から  
法による規制について何か示されているか質問したが、現在進行中で、返事  
は後ほどと前回聞いた。その後どのようなになっているか。

環境省

A: 厚生労働省において、PCB廃棄物の処理作業等における安全衛生対策要  
綱(案)が、先月からパブコメにかけられており、12月4日がパブコメの締  
め切りになっている。安全衛生対策要綱(案)については、厚生労働省のホ  
ームページに公開されており、最終的に厚生労働省でパブコメの内容を踏ま  
え、最終的な要綱を定め、関係機関に通知すると聞いている。

情報公開に関する施設視察に関する委員の感想および質疑

委員長

では、本日の議題に入る。1番目の議題は、PCB処理情報センターにつ

いてである。先ほど委員は、会議に先立ち、情報公開に関する施設について見学した。現在施設の方では最後の調整がとり行われており、今週末の18日(土)には、開業式が行われる事となっている。それでは、議題1のPCB処理情報センターについて改めて日本環境安全事業(株)より説明を求め、そのあと見学に関する員の感想などを言っていた。

(1) PCB処理情報センターについて

・〔資料1〕を日本環境安全事業(株)が説明。

- ▶ PCB処理情報センターは、情報公開ルーム、プレゼンテーションルーム、見学者通路などからなる。
- ▶ 情報公開ルームでは、作業状況や、運転状況、オンラインモニタリングの結果などがモニターを介して確認できる。

委員長

それでは、委員に見学の感想および要望等をお願いする。

委員

O：所感および要望を述べる。

- ・タッチパネルや説明版の文字が小さくて非常に見にくいと思った。これは、これから先、小学生や高齢者なども見学に来ると思うが、もう少し、説明版などの配置も含めて再検討してほしいと思った。
- ・玄関に入ると、間違えて靴のまま入ってくるケースが見受けられる。玄関周りについても何か対策を考えるべきではないか。
- ・全体の流れが理解できるものをつくって頂きたいと思う。
- ・2階の見学者通路のモニターが小さく、目の前に行ってみないと見ることができない。これも改善していただきたいと思う。
- ・(コンデンサーの)カットモデルが一番奥の方に置いてあるが、できれば玄関に入ったところに、こういったものを処理するのだということを出して頂いた方が良いと思う。トランスやコンデンサーの中を見たことがない人がほとんどだと思うが、大変小さなものを一番すみにおいてあり、見てもよく分からないし、説明も小さなものである。こういったものがこの施設で10年間かけて処理するのだということを市民の方にアピールするためにも、玄関に入ったところで、この事業の目的を示し、やって頂くことが、この事業を進めるにあたって、市民からの共感が得られるのではないかと思う。

委員

O：いよいよ処理事業が開始される。その前の見学ということで、高濃度PCBに対するグローブボックス作業について、実際に作業しているところを見て、安全ということを確認したかったが、今日はモニターで作業が見えなかった。

現在最高の設備で、これから10年間稼動することを願うものである。これ

からも、情報公開、安全、衛生管理など、見守らせていただきたいと思います。

委員

○： 処理情報センターの見学させて頂いたが、初めてここに来館される方にはよく理解できるものと感じた。ただし、一般の見学と、中の設備を見学することは別ものと理解しており、今のしくみとしては、情報センターを介して仕組みがわかり、良いのではないかと思った。

委員

○： 前回の視察以来、あっという間に出来上がってびっくりした。ただひとつ気になったのは、モニターの字が小さいこと、スリッパがとても歩きにくいことである。階段があり、危ないと思うので考慮願いたい。

委員

○： この処理情報センターを小学生が見学する可能性はあるのか。展示パネルにはルビが振ってなかったので、自分で読んで、それを理解するのは難しいと思うので、必ず説明の方がついて、解りやすく説明するという事で理解している。

委員

○： 数値、分析値が少し専門的かと思った。例えば単位がこれはどういう意味かといったことの説明が必要と思われる。

委員

○： 運転が正常に行われているときはやはり青ランプをつけて頂きたい。赤いランプがついてますと何か異常運転に見える。やはりテキストどおりに青いランプで安心して運転していることとしたい。

委員

○： 標準化が一番良いと思う。北九州のローカルルールでなく、国際標準でいければと思う。例えば、英語のパンフや、英語の表示をつけて頂きたいと思うし、今、エコタウン自体が一番人気のある観光スポットとまでは言わないが、案内するときに、非常に印象が強いものである。そこで、一番新しい施設でかつ、国の関連施設であり、そのような表示を行っても良いのではと思った。

処理情報センターは、土日祭日は開いていないとのことであるが、もし、一般に見てもらおうという気持ちがあるのなら、土日を開けるべきである。

委員

○： タッチパネルに関して、非常に見やすい内容であったが、小学生にとっては若干難しいかと思った。あと、十分に見るために、立っているとなかなか、見にくいと思う、高齢者の方など、長時間見るのはきついと思う。

委員

○： ホームページで情報公開を行っているが、北九州は先発ピッチャーですので、他の地域に無いような、北九州事業独特の公開方法をお願いする。

委員

○： タッチパネルを順番にタッチしていて、最後にタッチしていけないパネル

があり、知らずに触って怒られた。触っていけないものには触っていけない旨の記載をしてほしい。

委員長

○：触っていけない旨は書いてあったと思うが、触れても問題がおきないようにロックをかけるなどの配慮は必要だと思う。

委員長

次は、議題 2：北九州 PCB 廃棄物処理施設における試運転について、議題 3：緊急措置手引書について、議題 4：PCB 廃棄物処理施設の操業開始について、続けて日本環境安全事業(株)より説明を求める。

(2) 北九州 PCB 廃棄物処理施設における試運転について

・〔資料 2-1〕を日本環境安全事業(株)、〔資料 2-2〕を北九州市が説明。

- 試運転は 6 月より 11 月まで行われ、予定通りに終了した。
- 総合調整運転、非 PCB 廃棄物使用運転、PCB 廃棄物使用運転の順でおこなわれ、各機能が健全に機能することが確認された。
- ただし、処理性能については、前処理の洗浄能力に一部不足（予定よりも時間がかかる）が見られたため、操業は、能力を下げた上で開始。

(3) 緊急措置手引書について

・〔資料 3〕を日本環境安全事業(株)が説明。

- この緊急措置手引書は、北九州市との間で締結された環境保全協定に基づき作成。
- 天災その他不慮の事故が発生した場合に、直ちに対応策をとれる体制を整備。
- 内容は〔資料 3〕および〔参考資料(1)〕に記載。

(4) 北九州 PCB 廃棄物処理施設の操業開始について

・〔資料 4〕を日本環境安全事業(株)が説明。

- PCB 廃棄物処理施設操業開始にあたり、経緯および、今後の計画について説明。

委員長

議題 2 から議題 4 までの説明に関して、質問等をお願いしたい。

委員

Q: 洞海湾には環境省が行っているモニタリングのポイントがあるはずだが、この施設とポイントの関係を教えてほしい。環境省のモニタリングデータの報告書（黒本）に載っており、PCB の測定も行っているはずである。

北九州市

A: 黒本の調査地点と、排水口の位置関係であるが、排水口は埋立地の突端近くにあり、黒本の調査は、安瀬水道（響灘大橋の下）の洞海湾への出口の近くが、黒本の調査地点になっている。距離関係は解らない部分もあるが、位置関係はそのようになっている。

委員

Q: 緊急手引書の件、夜間または、休日における中央監視室の係員の判断により通報を行うとあるが、具体例が無いとわからない。勝手な判断をしてしまうことになりかねなく、その判断はあいまいなものになると思う。それから、開業式は、この施設で行うと思うが、是非、建屋内禁煙でお願いしたい。

委員長

Q: 施設内は、構内禁煙か。

日本環境安全事業(株)

A: 構内禁煙である。

委員

Q: 試運転に関わり、いくつか質問をする。

- ・ 試運転に使用した大型トランスやコンデンサーの量は、どれくらいか。そのトランス・コンデンサーに入っていたPCBの量はどれくらいのものか。
- ・ 緊急時における措置の手引きの件、第2章緊急の防災措置についてあるが、私、11月の防災訓練にご案内頂いたので見学させて頂いた。消防の隊員の方は、きびきびと訓練をされていたが、それを見て、今回の手引書に盛り込まれてないと思ったのが、ここに働いている人達が一番に被災されると思うが、そういう方が、関係機関に一番に連絡をする。しかし、一番近い若松消防署がここに着くまでにかなり時間がかかる。そうすると、今回、消防の方が訓練で着用していた防災服、宇宙服のような服でしたが、一番に被災する方のためにも、こういった防災服は、この施設にも装備する必要があるのではないかと思った。考慮願いたい。
- ・ 今後の課題ということで、ダイオキシンの防護具の作業性ということが出ていたが、直接PCBに触れている作業者の健康問題については、十二分に行って頂きたい。健康診断も頻繁に行って頂いて、安全に作業が行えるようにして頂きたい。現場の方が倒れてしまうと、二次災害が起こることになる。私たちがこれまで施設見学をさせて頂いた所は、低濃度で、非常にその点が抜けているといった感じがした。

是非、新しく始まるこの事業所に、万全の体制をとって頂くことを切に要望し、終わらせて頂く。

日本環境安全事業(株)

A: 質問のPCBの処理量は、まず、8月～12月末まで、コンデンサーは95台、トランスは14台、ドラム缶は12本処理している。さらに、PCBの処理量は、純PCBの処理量としては3トンの処理量になる。

次の質問の、施設の防災体制として、消防隊が用いていた作業服の準備ということであるが、これは、消防署と相談の上検討させて頂きたい。

次の作業者の健康診断について、作業従事者、特に解体室、粗解体室、解体分別室、PCB濃度が濃いものを扱っている作業従事者、2交代でおこない、粗解体室は4名1組で行っているのので、8名。解体分別室も同じく2交代で8名いる。16名の作業者については、試運転前のPCBを取り扱う前に、血液をサンプリングし、PCB濃度、ダイオキシン類濃度について測定している。さらに、試運転の終了の頃再度測定し、特に問題ないことを把握している。作業従事者の安全については、北九州事業部会の中に、「作業従事者の安全管理について」という報告書をまとめている。「作業従事者の安全管理について」は、産業医大の先生方や、国立環境研究所の酒井先生や森田先生などに入って頂き、PCB濃度、ダイオキシン類濃度のサンプリング手法についてご指導頂いた。さらに、私ども職員のもものと、運転会社の社員の血液をサンプリングし冷凍保存をしており、何か問題があれば、短期間に分析ができる体制をとっている。

委員

Q: 輸送時の緊急時体制マニュアルはできるのか？また、輸送担当者は、なにか特別な資格を持っている方が従事するのか。

北九州市

A: 輸送時の体制については、紹介したとおり、2社の許可がある。その中に緊急時の輸送マニュアルを提出することが義務つけられており、その中で対応して頂いている。それから、特別な資格は必要かという問いであるが、確認して後日お答えする。

委員

Q: 試運転結果の分析値であるが、実際は、公定法でなく、オンライン分析をランニングで行うのでよいか。オンライン分析は、精度の下限が0.01であるが、実際に測定するものは、0.01以下でなくてはならないのでは。下限の分析方法で、最低限の限度のものを分析して十分かどうかは、いまからランニング的に分析する上では、これで良いのかというチェックをしておかないと、この0.01以下の下限設定値で、この関係を教えて頂きたい。

日本環境安全事業(株)

A: アナライザーでの分析の精度の下限が0.01であると、数字はそういう条件の値として表される。実際には公定法で定期的にチェックし、そのデータとの突合せをこれからも行っていき、その中で、0.01以下の領域をアナライザーで確認しうるかということを、確認していく。

委員

Q: 試運転の全体工程で、第1次性能確認試験、第2次性能確認試験というものがある。これはいつ行ったのか。もうひとつは、処理性能についてである。いずれも、分解処理が終了したことを認めた旨の説明を受け、基準値に余裕を持って達成されていることが理解できた。ところで、性能試験の各段階で得られた測定結果がわかれば教えて頂きたい。

日本環境安全事業(株)

A: 最初の質問の性能確認試験はいつ行ったかということであるが、私共最初の2次洗浄の性能を探していく中で、予定が変わってきたため、最終的にここでは、11月の中旬に処理量確認試験というものがある。ここで、引渡し性能を含めて能力の確認も行った。

続いて、液処理をする場合は、トランス・コンデンサーから抜いたPCBを、受槽にもってきて、反応させる前に、ある一定濃度にした後、反応槽に送られる。反応層に送られた油は、10%前後のPCB濃度で反応させるのである。すなわち、処理の対象となる油のPCB濃度は、すでに、10%になっており、いろんな濃度を持っているわけではない。

委員長

Q: どこまで処理できたかどうかのパフォーマンスはどうか。

日本環境安全事業(株)

A: [参考1]左から4列目、PCBは、1日に約123~126kg処理する。ここは、2つの反応槽をもっており、1つの反応槽で約12時間、1日2回転でトータル4回転で約0.5t。その確認が(参考1:8~11で)連続運転と書いてあるが、4つのバッチ処理を連続で運転することによって、0.5tを処理することができた。

委員長

Q: 減量濃度として、1万のものが0.5以下に落ちたということによいか。

日本環境安全事業(株)

A: そのとおりである。

委員

Q: 先ほど分析値で、0.01が信頼できないという話であったが、TOFMSは、まだ10年位しか経ってなく、これは、分子量がもっと大きいものを分析する際に用いるものと認識している。われわれが、東京電力に視察に行った時は、ECDが使われたと思うが、ここで、これを採用されずTOFMSを採用した理由は。

日本環境安全事業(株)

A: 詳しいことは、ここでお答えできないが、TOFMSとECDでは測定する時間が違う。TOFMSのほうが短時間で分析できることだと思う。

委員

Q: ガスクロですからそんなにTOFMSもECDも変わらない。むしろ、ECDは、放射線源を用いますので、使用できる方が限られる。そういったことではないか。

日本環境安全事業(株)

A: 一般的にはそうである。

委員長

Q: ECDの方法で測っているが、このときは、どれくらいの時間がかかったのか。数時間かかるとのことだが。また、前処理は必要なのか。ガスクロなので前処理が必要かどうか。



日本環境安全事業(株)

A: 時間は、数時間かかる。前処理については、再度確認の上回答する。

委員長

Q: 安全監視で施設は設計されていると思うが、例えば、どこかの装置が壊れた(故障した)ことを想定して、それに対する対応がたてられ、装置のチェックがされているかどうか。

日本環境安全事業(株)

A: 7月に、非PCB廃棄物、すなわち絶縁油を用いて、実際のPCB廃棄物を処理する運転条件で、プラント全体が健全に動くかどうかを確認している。そのときに、異常時に施設が安全確実に緊急停止するか、そして、再起動できるかといったことを確認している。

委員

Q: 今日見学させて頂いた、ところで、先ほどの続きであるが、我々監視委員会では、最初に、処理の方法から、設備はどんなものかといったことで、東京電力など調べさせて頂いた。今では、設備はできて、操業管理といった段階にきている。今日は、モニターでもって、見せていただいた訳であるが、本当に見たかったのは、中に入ってグローブボックスの作業性や、加工する機械がきちんと動いているのかといったことも関心があって、実際にうまくいくような方法にお手伝いできればと思って、これを期待していたのであるが、この見学では、確認することができなかった。

委員長

Q: 今の質問に対して確認しておきたいのは、今の話は、技術の専門委員会で対応されたと思うが、このチェックはどうなっているのか。要するに監視委員会において、技術的なことをチェックするのではなく、専門委員会を持ってチェックされていたと思うが。

日本環境安全事業(株)

A: ポリ塩化ビフェニル事業検討委員会というものがある。私どもは、5箇所の事業を行っているが、それぞれの事業に事業部会、北九州には、北九州事業部会があり、部会の先生には、産業医大の伊岐須先生、国環研の酒井先生、森田先生、熊本県立大の篠原先生、愛媛大学の田辺先生の5名の先生方がみえる。12月1日に今回皆様に説明させて頂いた資料を先生方に説明し、安全に処理できることをご確認頂いた。

北九州市

A: もともと監視委員会にお願いしたのは、こういった議論をして頂く事とあわせ、施設の中に、一般の見学の方以上に中に入って頂くこともあるという事をお願いしている。前回の監視委員会でも中に入って頂いている。次回以降は中に入って頂きたいと思うが、今日はたまたまこういう事になっているのでご理解頂きたい。日本環境安全事業(株)が自らの責任で北九州事業部会というものを作っており、自分たちで検討し、チェックして頂いており、それとは別に、第三者としてみて頂くことをお願いしたいと思う。

委員

Q: 事故は無いと思うが、万が一事故が起こった場合の措置であるが、緊急措置手引書の第 27 条「所長は、市長、区長又は警察官等から、近隣地域の居住者等に対し避難の指示又は勧告がなされたときは、これに協力するものとする。」とあるが、緊急時の通報について、まず、どこから出されるのか教えてほしい。

日本環境安全事業(株)

A: まず、第一報は、私共の方から監督官庁へ報告する。住民の方への報告は、監督官庁からの協力要請を受けて協力するという形になる。住民の方への避難・誘導等は、監督官庁の方で対応するようになっており、要請があればこれに伴う、情報提供や広報活動の協力を行う。

北九州市

A: 住民の方への通報は、若松区のまちづくり推進課と、連絡調整を行っている。どのように通報するか等については、現在、関係者と調整を行っているので、また具体的に説明したいと思う。

委員長

Q: 北九州市の方で責任を持って連絡体制をつくっていくということでしょうか。

北九州市

A: はい。

委員

Q: 事故調査委員会は、監視委員会と関連性があるのか。

北九州市

A: 関連は無いが、事故などの問題がおきれば、監視委員会にも報告する。

委員長

最後に、日本環境安全事業(株)および環境省より報告があるとのことである。

日本環境安全事業(株)

#### 【料金の説明】

9月17日に処理料金を公表させて頂いた。この「PCB 処理事業がいよいよはじまります」パンフレットは、私共の事業のこと、処理料金のことを保管事業者の方に理解いただくために作成したもの。

料金について説明すると、弊社は全国に5箇所の事業所を建設中であるが、基本的に処理料金は全国一律に設定しており、資料のなかにある料金体系になっている。料金を決めるにあたっては、トランスとコンデンサーに分けて設定しており、さらに、PCB油のみでも設定している。例えば、トランスとコンデンサーの料金を比較すると、同じ重量でも違いがある。これは、コンデンサーの方がトランスに比べて、中に部材が多く入っており、処理が難しいこと、さらに、入っているPCB濃度が違うなどの理由により料金が違う。

基本的には処理対象物を処理する作業量、薬剤など価格コストを勘案して設定している。

この料金を決めたことにより、できるだけ多くの保管事業者に周知し、かつできるだけ早く処理して頂きたいため、早期登録調整協力割引というものを設けており、来年の4月から再来年の3月の1年間に処理の登録を弊社にして頂ければ、処理料金を5%割引くことにしている。但し、北九州に関しては、処理が開始されるということで、11月26日に北九州市内の保管事業者はこのパンフレットを送付し、登録を受付けている。

中小企業については処理料を捻出するのが困難ということで、国・都道府県から、環境再生保全機構に基金が出ており、こういったお金を使い、中小企業については、処理料が7割軽減される。

#### 環境省

PCBの処理については、30年来その処理が、課題とされてきたところであるが、北九州市のご尽力、また、地元の方々のご理解を賜り、今般、日本環境安全事業(株)において、無事、試運転が完了することができたところである。

本日、試運転の結果について、日本環境安全事業(株)から、説明をさせて頂いたところであるが、安全、確実な処理をするという点では、初期の目的を達し、きちんと施設としての機能が確認されたところである。これを踏まえ、北九州市から12月10日付けで、処分業の許可が出されたところであり、環境省としても、こういったことを踏まえて、この施設でPCBが、安全に処理できるものと考えている。

これまでPCBの処理について地元の方々にご説明し、ご理解頂くにあたり、「いつでも、どこでも、だれにでも」説明していくということで、北九州市においては、100回以上に上る説明会を開催してきたところである。

今後、施設の運転を監視し、安全な運転を行っていくという点で、どこから見ても、誰が見ても安全であるといった施設の運転を行っていくよう、環境省としても、日本環境安全事業(株)が安全性に十分配慮し、かつ的確な情報公開を行うよう、指導監督していく所存である。

今後、本施設において、PCBの適切な処理を進めていくにあたり、地元の皆様方にご理解を頂くということが重要であり、本委員会の委員の皆様方に、十分ご説明申し上げ、ご理解頂きながら進めて行く事が非常に大事なことだと考えており、引続き忌憚りの無い意見を賜りますようお願い申し上げます。

#### 委員長

今の件、および全体の件について、質問等ないか

#### 委員

D: 監視委員の一人として、国や日本環境安全事業(株)に要望したいと思う。

いよいよ新しく、この事業が始まるが、この響灘沿岸地域において、トランス等が主に中国等に輸出されている。(写真を示しながら)これは資材として送られている。後で確認して頂きたいが、日本でつくられたトランスが、

資材として船で輸出されていると、船の関係者の方が言っていた。また、現地に置かれているトランスなどから、オイルが漏れている。さらに、この場所は、現在人が入られない状況になっている。委員会の帰りに是非見て頂きたい。北九州市がこの事業を進めているという点では、この若松の住民の本当の気持ちも理解して頂きたい。ということ要望する。

委員長

今の発言(見学の部分)は、この会議の本題からはずれているので不適切。別の場、別の形での要望として頂きたい。この委員会では、この事業の安全に関する話を中心にして頂きたい。

委員長

最後に、実際に操業が開始されるが、これに関して、一言ある方はどうぞ。

委員

Q: 処理料金表にある、中小企業の定義は。

環境省

A: この中小企業者等とは、中小企業支援法に該当する中小企業者等であり、例えば、製造業であれば、資本金が3億円以下、従業員が300人以下の者が今回の助成の対象ということとなる。

以 上